

第6回映像ゼミナール/2008 初冬

2008年12月4日(木)/17時~18時30分 会場: 8-209 【入場無料】

特集: 映像と文学テキスト

R.W. ファスビンダーと『ベルリン・アレクサンダー広場』(仮)

発表者: 桑田 文



ファスビンダーは、文学作品の映画化について、映画を文学作品の代替物にしようとするならば、凡庸で退屈なものしか生まれないと述べている。ファスビンダーにとって、文学作品の映画化が正当化されるためには、原作のテキストをまるごと映像へと翻訳するにとどまらず、「文学」と「言語」に対して明確な問いを発し、物語内容とそれに対する原作者の立場について自身ではっきりとした態度を示すことが重要であった。原作に描き出される世界を作家がどう語っているのか、原作の世界が我々の現実、とりわけ主観的に捉えられる我々の現実とどう関わり合うのか、そして、その世界が我々に突きつける、我々の生きる現実の真相とはどのようなものなのか。ファスビンダーの場合、文学作品の映画化とは、こうした点を解明するスリリングな作業となる。

ファスビンダーの集大成ともいえる『ベルリン・アレクサンダー広場』に関していえば、特筆すべきは、S.ソントグが指摘するように、ファスビンダーがそこで、あくまでも物語性に執着し、原作の世界を完全なる作り物の世界として極端な形にまでつきつめる点であろう。本発表では、これらの点を踏まえ、A.デーブリーンによる原作のテキストとのコラボレーションが生み出す、ファスビンダーの映像美学の可能性について検討する。

お問い合わせ:

上智大学ヨーロッパ研究所

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 Tel/Fax 03-3238-3902